

モニタリング結果報告書 (令和4年度)

1. 施設概要

施設名	芹が谷やまゆり園		
所在地	横浜市港南区芹が谷2-3-1		
サイトURL	https://serigaya.kyoudoukai.jp/		
根拠条例	神奈川県立の障害者支援施設に関する条例		
設置目的(設置時期)	障害者総合支援法第5条第11項に規定する障害者支援施設 (設置年月: 令和3年8月)		
指定管理者名	社会福祉法人かながわ共同会		
指定期間	R3. 8. 1 ~ R5. 3. 31 (2021年) (2023年)	施設所管課 (事務所)	障害サービス課

2. 総合的な評価

総合的な評価の理由と今後の対応
<p>※新型コロナウイルス感染症や原油価格高騰が3項目評価(利用状況、利用者満足度、収支状況)に与えた影響及び対応状況も含めて「総合的な評価の理由と今後の対応」を記載。</p>
<p>利用状況B評価、利用者の満足度C評価、収支状況S評価となったことから、3項目評価はB評価とした。 利用状況(B評価)は、令和3年度から利用状況が改善したものの、目標値を達成することができなかった。 今後については、指定管理者から提出された事業計画書を踏まえて、引き続き随時モニタリング等を通じて利用者支援の内容を確認するとともに、提案内容が着実に履行されるよう、必要な改善指導を行っていく。</p>
<p><各項目の詳細説明></p> <p>◆管理運営等の状況 令和4年度は、開所から2年目を迎え、基本的な感染対策を継続しながら、地域の小学校や地元自治会など、途絶えがちだった地域交流の推進に取り組んだ。また、意思決定支援では、利用者の思いをくみ取り、丁寧な記録から利用者の意向、嗜好を推定し、地域移行の体験へ向けた支援を継続するとともに、日本意思決定支援ネットワーク講師による研修を継続的に受講し、支援に活かした。</p> <p>◆利用状況 新型コロナウイルスの影響により、新規入所を抑制したことから、利用状況の評価は目標達成率88.4%でB評価となった。しかし、前年度比では152%と増加しており、今後も一人ひとりの思いに寄せた様々な取組により、利用状況の改善を期待したい。</p> <p>◆利用者の満足度 令和3年度から新たに開始した利用者本人に対する満足度調査では、上位2項目(満足、どちらかといえば満足)の回答が多かった一方、無回答(わからない)という回答も多くあり、結果的にC評価となった。利用者を対象とした満足度調査は開始したばかりであり、今度より正確に満足度を測定できるよう、意思決定支援等を通じて、さらなる改善を行っていく。</p> <p>◆収支状況 新型コロナウイルス感染症による短期入所利用者数の減少やコロナ感染予防のための経費の増加はあったが、マイナス収支の縮減率128%となり、S評価となった。</p> <p>◆苦情・要望等 特になし。</p> <p>◆事故・不祥事等 利用者の怪我、所在不明の事例があった。事故報告については、電話での第一報を速やかに県に報告している。</p> <p>◆労働環境の確保に係る取組状況 特になし。</p> <p>◆その他 今後も「当事者目線の障がい福祉」の考え方を踏まえた支援が実施されるよう、指定管理者との連携を継続していく。</p>

3. 3項目評価の結果

3項目評価	利用状況	利用者の満足度	収支状況	3項目評価とは、3つの項目(利用状況、利用者の満足度、収支状況)の評価結果をもとに行う評価をいう。 S: 極めて良好 A: 良好 B: 一部改善が必要 C: 抜本的な改善が必要
	(項目6参照)	(項目7参照)	(項目8参照)	
B	B	C	S	

4. 定期・随時モニタリング実施状況の確認

月例業務報告 確認	遅滞・特記事項があった月	特記事項または遅滞があった場合はその理由
	無	
現地調査等 の実施状況	実施頻度	現地調査等の内容
	①月4回程度(平均) ②令和4年8月10日 8月23日 8月25日 8月30日 11月7日	①主に工事、修繕及び財産管理に関わること。 ②当事者目線の支援サポートチームによる集中モニタリングを実施した。同園で取り組む「意思決定支援」、「ユニット出入口の開錠」などの取組状況を確認した。また、地域生活移行に向けた取組として、地域資源の開拓や地域の事業所とのネットワーク構築などが途上である等の課題に対しては、改善指導を行った。
意見交換等 の実施状況	実施頻度	意見交換等の内容
	月1回	県と指定管理者とで定例打合せを実施。職員配置状況や運営上の課題等を情報共有した。
随時モニタリングにおける 指導・改善勧告等の 有無	有・ 無	指導・改善勧告等の内容

5. 管理運営等の状況

[指定管理業務]

事業計画の主な内容	実施状況等	実施状況に関わるコメント
指定管理施設の円滑な運営と地域生活を支える拠点	新たな入所者の選考に関する基準を定め、関係機関との連携を図りながら計画的に進めるとともに、短期入所事業を本格的に始動。地域ニーズの把握に努めながら可能なサービスを活用し、地域との繋がりを意識した取り組みを行った。	新規入所者エントリー開始7月、選考9月<R5.3.31時点> 入所者数56名 短期登録者33名
当事者目線による意思決定支援の推進	年度より新たな個別支援計画を実際に運用し、最善の将来像をより本人の意思へと近づけるよう、定期的な計画確認・見直し・変更を繰り返し進めていく取り組みを進め、それらの実践・実効性を高める基盤を整備した。これにより出てきた課題について精査し、コンサルテーションを活用しながら基盤となる支援員の意識改革に努めた。	担当者会議継続実施、コンサル導入、外部発信実績 5件
地域生活移行の推進・充実	当事者目線に立った意思決定支援を通して、利用者の意思に沿って社会経験を増やし、地域生活移行への更なる推進に努めました。地域資源活用を視野に有償サービス利用も含めた、個々に関わるコミュニティーを広げながらアセスメントを繰り返し、新たな拠点施設としての役割を目指していく。	外部資源活用(個別契約にて外出補助 マッサージ) GH見学・体験随時実施

権利擁護の推進と身体拘束及び虐待の防止	新施設運用開始と同時に開かれた施設づくりを目指した。当事者目線の支援を実践する中で、これまでの課題を軽減する閉鎖的で指導的な支援を脱却し、利用者の意思形成、意思表示ができる環境作りと支援姿勢を確立させる取り組みを行った。具体的に、研修を通じて基礎知識を高めるとともに、新たな個別支援計画の運用を進めることで、より権利擁護を意識した取り組みがなされるよう努めた。	虐待防止基礎研修、不祥事防止研修年間計画に基づき全職員計画的受講
開かれた施設づくりと地域貢献、福祉教育への貢献	今年度、近隣地域資源のPR活動の検討を行う福祉啓発部会に参画し、協議会の一員としての役割を果たした。芹が谷小学校4年生との交流について、昨年度から定期的に学生が足を運び、利用者との交流をはじめ、学生からの学びの発表の場を作ることが出来た。企画においても教員と情報交換を図りながら、福祉教育の一環としての役割を果たすことができた。	港南区自立支援協議会参画、芹が谷小学校4年生との福祉交流（7月、10月、12月3月）赤い羽根 1月

※指定管理業務に与えた新型コロナウイルス感染症等の影響がある場合、対応状況を含めて、「実施状況等」欄に記載。

[参考：自主事業]

事業計画の主な内容	実施状況等

※自主事業に与えた新型コロナウイルス感染症等の影響がある場合、対応状況を含めて、「実施状況等」欄に記載。

6. 利用状況

評価	≪評価の目安≫ 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満 ※施設の特徴から利用状況の評価を行わない場合は「目標値の設定根拠」欄に当該理由を、「目標値」欄に代わりとなる数値（定員数等）を記載してください（女性保護施設と県営住宅等が該当）。
B	

	前々年度	前年度	令和4年度
利用者数※		12,708	19,350
対前年度比			152.3%
目標値		14,580	21,900
目標達成率		87.2%	88.4%

目標値の設定根拠： 社会福祉入所施設であり目標値の設定が困難であるため
入所定員×365日で設定（閏年の年度は366日）

利用者数の算出方法（対象）： 施設入所者の延べ人数（定員60名）

※原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

<備考>

前年度の目標値は令和3年8月からの開所日数（243日）に基づき設定している。

【新型コロナウイルス感染症等が利用状況に与えた影響と対応状況】

（※当該影響により評価結果がCとなった場合は必ず記載）

- ①新型コロナウイルス感染症等が利用状況に与えた影響
新型コロナウイルス感染症等の影響に関しては「2. 総合的な評価」欄を参照
- ②令和4年度の対応状況
新型コロナウイルス感染症等の影響に関しては「2. 総合的な評価」欄を参照

7. 利用者の満足度

評価	《評価の目安》 「満足」（上位二段階の評価）と答えた割合が、S：90%以上 A：70%以上～90%未満 B：50%以上～70%未満 C：50%未満 ※評価はサービス内容の総合評価の「満足」回答割合で行う。
C	

	協定に定めた調査内容	実施結果と分析
満足度調査の実施内容	簡易調査、定期調査（当事者が理解しやすく、回答しやすいように2択で実施）	コロナ以前は自由記載欄でご指摘を受けることが多かった『身だしなみ』については、今年度設問に入れて確認をしたが、不満という回答はなかった。

[サービス内容の総合評価]

質問内容 _____ てつだってほしいときに たすけてくれますか？

実施した調査の配布方法 対面アンケート 回収数/配布数 55 / 55 = 100.0%

配布(サンプル)対象 _____ 施設利用者

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	合計	満足、不満に回答があった場合はその理由
サービス内容の総合評価の回答数	20	0	0	0	55	「満足」「不満」以外の35枚は「わからない」を回答
回答率	36.4%	0.0%	0.0%	0.0%		
前年度の回答数	21			4	25	
前年度回答率	84.0%			16.0%		
回答率の対前年度比	43%			0%		

(複数回実施した場合は、平均値を記載。)

<備考>

令和3年度アンケートを評価して令和4年度のアンケートに改定したものの、『わからない』の回答が多数を占める結果は変わりなかった。こちらが伝える工夫と、そのために利用者に関わり、もっと知ろうとすることが必要。オンブズパーソン(OP)からは「サービスの評価につながる記録を日々積み重ねることも一つの対応ではないか」との助言をいただいた。その点も含めて対応を検討していきたい。

【新型コロナウイルス感染症等が利用者満足度に与えた影響と対応状況】

(※当該影響により評価結果がCとなった場合は必ず記載)

①新型コロナウイルス感染症等が利用者満足度に与えた影響

人との交流、外出、外食が制限され、やりたいことが思うようにできなかったが、感染リスクを軽減する取組みを継続しつつ、ユニット毎の取り組みが中心となってしまうが、環境配慮や支援の工夫により個々のニーズの具現化を図った。

②令和4年度の対応状況

基本的な感染防止対策（マスク着用、手指消毒、換気の徹底、健康記録等）を継続しつつ、外出や面会、帰宅等について、行先の感染防止対策等に留意しつつ再開した。

7月27日から8月16日にかけて入所利用者9名が感染され、クラスターとなり寮内で療養された。また、12月19日入所利用者1名が感染され、29日まで入院療養後退院した。

8. 収支状況

評価	≪評価の目安：収支差額の当初予算額がマイナスの施設≫ (収支差額の当初予算額－収支差額の決算額)／収支差額の当初予算額の比率(マイナス収支の縮減率)が、S(優良)：5%以上 A(良好)：0%～5%未満 B(概ね計画どおりの収支状況である)：-15%～0%未満 C(収支差額の決算額の削減額が当初予算の85%未満)：-15%未満
S	

[指定管理業務]

(単位：千円)

		収入の状況					支出の状況	収支の状況	
		指定管理料	利用料金	その他収入	その他収入 の主な内訳	収入合計	支出	収支差額	マイナス収支の 縮減率 ※
前々年度	当初予算	—	—	—	—	—	—	—	
	決算	—	—	—	—	—	—	—	—
前年度	当初予算	202,307	268,195	7,186	備考欄参照	477,688	528,728	-51,040	
	決算	190,275	233,234	5,447	備考欄参照	428,956	458,078	-29,122	42.94%
令和4年度	当初予算	286,806	421,941	4,676	備考欄参照	713,423	735,263	-21,840	
	決算	286,806	384,597	8,225	備考欄参照	679,628	673,383	6,245	128.59%

※収支差額の当初予算額－収支差額の決算額/収支差額の当初予算額

※支出に納付金が含まれる場合、その内数

(単位：千円)

令和4年度 / 前年度 / 前々年度 /

<備考>その他収入の主な内訳

【令和3年度】

当初予算

・経常経費寄付金収益 254
・その他の収入 6,932

決算

・経常経費寄付金収益 320
・その他の収入 5,127

【令和4年度】

当初予算

・経常経費寄付金収益 50
・その他の収入 4,625

決算

・経常経費寄付金収益 235
・その他の収入 7,990

【新型コロナウイルス感染症等が収支状況に与えた影響と対応状況】

(※当該影響により評価結果がCとなった場合は必ず記載)

①新型コロナウイルス感染症等が収支状況に与えた影響

新型コロナウイルス感染症等の影響に関しては「2. 総合的な評価」欄を参照

②令和4年度の対応状況

新型コロナウイルス感染症等の影響に関しては「2. 総合的な評価」欄を参照

9. 苦情・要望等 該当なし

分野	報告件数	概要	対応状況
施設・設備	件		
	件		
職員対応	件		
	件		
事業内容	件		
	件		
その他	件		
	件		

※指定管理者に起因するものを記載。その他、苦情・要望への対応を行ったものを記載。

10. 事故・不祥事等 該当なし

発生日	①発生時の詳細な状況 ②県職員による確認の状況（内容及び実施日を記入） ③その後の経過（現在に至るまでの負傷者の状況、再発防止策等） ④施設に対する問題点の指摘やクレームの有無（有の場合は概要を記入） ⑤原因及び費用負担の有無（費用負担が有の場合は内容および負担者を記入） ⑥記者発表の有無（有の場合はその年月日を記入）
6月29日	①自傷によるドア蹴りによる負傷。本人の足を確認すると右足第5指が痣の様に赤黒くなっているのを確認。外部通院にて右足第5指基節骨骨折との診断を受ける。 ②口頭での一報連絡後、後日事故報告書送付。 ③右足をかばい左足に負荷がかかり、通院時新たに左足外果関節の剥離骨折の診断を受ける。自傷に至る背景を評価。コミュニケーション不足を解消する。受傷後のケアについて障害特性を理解し、寄り添う支援を共有。 ④無 ⑤無 ⑥無
7月6日	①頭部裂傷。夜間トイレ内立ち便器横の仕切り板の角にぶつけ裂傷。外部通院にて4針縫合する。バイタル異常なし、CT検査も異常なし。 ②口頭での一報連絡後、後日事故報告書送付。 ③経過良好、後日抜糸。ハード面改修を進めクッション材を備え付ける。 ④無 ⑤無 ⑥無
12月31日	①所在不明。夜間就寝薬服用準備の為、居室に行くと窓が開いており所在確認できず、捜索開始。後、警察より入電があり、近隣のコンビニで本人を保護したと連絡がある。20:25 警察官とともに帰園。 ②口頭での一報連絡後、後日事故報告書送付。 ③開錠されたハード面を評価し、リスク回避を含めたアセスメントを行い、多角的に評価し、自由度を担保した支援に結びつける。 ④無 ⑤無 ⑥無

※随時モニタリングを実施した場合は必ずその内容を記載。

※過去に発生したものでも、新たな対応等を実施した場合には、その内容を記載。

※なお、大きな事故・不祥事について改善勧告を行わなかった場合は、その理由を併せて記載。

11. 労働環境の確保に係る取組状況

確認項目	指摘事項の有無	備考
法令に基づく手続き	無	
職員の配置体制	無	
労働時間	無	
職場環境	無	

※指摘事項は、県による監査（包括外部監査含む）又は労働基準監督署によるものとし、有とした場合は備考欄に概要を記載。